

# 倉敷地区泌尿器科専門研修プログラム

## 1. 目的と使命

### (1) 倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムの目的

泌尿器科専門医制度は、医の倫理に基づいた医療の実践を体得し、高度の泌尿器科専門知識と技能とともに地域医療にも対応できる総合的診療に必要な基本的臨床能力を修得した泌尿器科専門医の育成を図り、国民の健康増進、医療の向上に貢献することを目的とします。

当プログラムでは、基幹施設である倉敷中央病院においてわが国の泌尿器科の標準治療や先進的な医療を経験し学ぶとともに、岡山県南西部医療圏で地域医療を担う連携施設において一貫した研修を行なうことにより、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療について身をもって理解でき、将来は泌尿器科専門医として主に岡山全域を支える人材の育成を行う理念に基づいています。

### (2) 泌尿器科専門医の使命

泌尿器科専門医は小児から成人に至る様々な泌尿器疾患、ならびにわが国の高齢化に伴い増加が予想される排尿障害、尿路性器悪性腫瘍、慢性腎疾患などに対する専門的知識と診療技能を持ちつつ、高齢者に多い一般的な併存疾患にも独自で対応でき、必要に応じて地域医療との連携や他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行える能力を備えた医師です。泌尿器科専門医はこれらの診療を実践し、総合的診療能力も兼ね備えることによって社会に対する責務を果たし、地域医療にも配慮した国民の健康・福祉の増進に貢献します。

## 2. 専門研修の目標

専攻医は4年間の泌尿器科研修プログラムによる専門研修により、「泌尿器科医は超高齢社会の総合的な医療ニーズに対応しつつ泌尿器科領域における幅広い知識、錬磨された技能と高い倫理性を備えた医師である」という基本的姿勢のもと、

1. 泌尿器科専門知識
2. 泌尿器科専門技能：診察・検査・診断・処置・手術
3. 継続的な科学的探求心の涵養

#### 4. 倫理観と医療のプロフェッショナリズム

の4つのコアコンピテンシーからなる資質を備えた泌尿器科専門医になることを目指します。また、各コアコンピテンシーにおける一般目標、知識、診療技能、態度に関する到達目標が設定されています。

詳細は専攻医研修マニュアルの「個別目標 1~4」（15~19 頁）を参照して下さい。

### 3. 倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムの特色

岡山県南西部医療圏は、倉敷市、笠岡市、井原市、総社市、浅口市、早島町、里庄町、矢掛町の8つの地方自治体（5市3町）からなる面積1,124 km<sup>2</sup>、人口70万人の医療圏であり、医療過疎の地区も含んでいます。倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムは、倉敷中央病院を基幹施設として7つの病院により構成され、腹腔鏡手術を含めた泌尿器科腫瘍、尿路結石、前立腺疾患などの幅広い領域にわたる一般的もしくは専門的泌尿器科手術を行っているほか、救急疾患をはじめとする泌尿器科疾患にも対応しています。特に基幹施設である倉敷中央病院は救命救急センターを持ち、救急患者数6万人/年、救急車1万台/年と症例数も多いため、外傷、尿路性器感染症、尿路性器出血、急性陰囊症など多彩な泌尿器救急疾患が経験できます。また、女性泌尿器科、男性不妊症、ロボット支援手術などのサブスペシャリティ領域も効果的に研修できるように設計されています。また、地域連携も重要と考えており、地域連携を学ぶために必要な施設も研修連携施設に入っています（詳細は「10. 専攻医研修ローテーション(4) 研修連携施設について」を参照してください）。

専攻医はこれらの多様な病院群をローテートすることにより、泌尿器科専門医に必要な知識や技能の習得と同時に、地域医療との連携や他の専門医への紹介・転送の判断を的確に行える能力を身につけることができます。

とくにロボット支援手術は、前立腺全摘除術（前立腺癌）、腎部分切除術（腎癌）、膀胱全摘除術（膀胱癌）に加え、腎摘除術（腎癌）、副腎摘除術（副腎腫瘍）、腎盂形成術まで保険適用が拡大されたこともあり、もはやサブスペシャリティから泌尿器科の一般的手術に変わりつつあり、専門医研修においても重要な位置を占めるものになると思われます。

#### 4. 募集専攻医数

各専攻医指導施設における専攻医総数の上限（4学年分）は、当該年度の指導医数×2で

す。各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したもので、受入専攻医数は病院群の症例数が専攻医の必要経験数を十分に提供できるものです。

この基準に基づき毎年1名程度を受入数とします。

## 5. 専門知識・専門技能の習得計画

### (1) 研修段階の定義

泌尿器科専門医は2年間の初期臨床研修が終了し、後期研修が開始した段階から開始され4年間の研修で育成されます。4年間のうち基本的には研修基幹施設で2年間の研修を行い、それ以外の2年間を研修連携施設で研修することになりますが、専攻医の希望や研修状況に応じて、後半2年間のうち最大1年間まで研修基幹施設での研修を認めます。

詳細は「10. 専攻医研修ローテーション」を参照してください。

### (2) 研修期間中に習得すべき専門知識と専門技能

専門研修では、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と日本泌尿器科学会が定める「泌尿器科専門研修プログラム基準 専攻医研修マニュアル」にもとづいて泌尿器科専門医に求められる知識・技術の修得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。

#### ① 専門知識

泌尿器科領域では発生学・局所解剖・生殖生理・感染症・腎生理学・内分泌学の6領域での包括的な知識を獲得します。詳細は専攻医研修マニュアルの「個別目標 1. 泌尿器科専門知識」（15～16頁）を参照して下さい。

#### ② 専門技能

泌尿器科領域では、鑑別診断のための各種症状・徴候の判断、診察法・検査の習熟と臨床応用、手術適応の決定や手技の習得と周術期の管理、を実践するための技能を獲得します。詳細は専攻医研修マニュアルの「個別目標 2. 泌尿器科専門技能：診察・検査・診断・処置・手術」（16～18頁）を参照して下さい。

#### ③ 経験すべき疾患・病態の目標

泌尿器科領域では、腎・尿路・男性生殖器ならびに関連臓器に関する、先天異常、外傷・

損傷、良性・悪性腫瘍、尿路結石症、内分泌疾患、男性不妊症、性機能障害、感染症、下部尿路機能障害、女性泌尿器疾患、神経性疾患、慢性・急性腎不全、小児泌尿器疾患などの疾患について経験します。詳細は専攻医研修マニュアルの「(1) 経験すべき疾患・病態」(20～22 頁)を参照して下さい。

#### ④ 経験すべき診察・検査

泌尿器科領域では、内視鏡検査、超音波検査、ウロダイナミックス、前立腺生検、各種画像検査などについて、実施あるいは指示し、結果を評価・判定することを経験します。詳細は専攻医研修マニュアルの「(2) 経験すべき診察・検査等」(23 頁)を参照して下さい。

#### ⑤ 経験すべき手術・処置

泌尿器科領域では、経験すべき手術件数は以下のとおりとします。

##### A. 一般的な手術に関する項目

下記の 4 領域において、術者として経験すべき症例数が各領域 5 例以上（「副腎、腎、後腹膜の手術」のみ 3 例以上）かつ合計 50 例以上であること。

- ・ 副腎、腎、後腹膜の手術
- ・ 尿管、膀胱の手術
- ・ 前立腺、尿道の手術
- ・ 陰嚢内容臓器、陰茎の手術

##### B. 専門的な手術に関する項目

下記の 7 領域において、術者あるいは助手として経験すべき症例数が 1 領域 10 例以上を最低 2 領域かつ合計 30 例以上であること。

- ・ 腎移植・透析関連の手術
- ・ 小児泌尿器関連の手術
- ・ 女性泌尿器関連の手術
- ・ ED、不妊関連の手術
- ・ 結石関連の手術
- ・ 神経泌尿器・臓器再建関連の手術
- ・ 腹腔鏡・腹腔鏡下小切開・ロボット支援関連の手術

詳細は専攻医研修マニュアルの「③研修修了に必要な手術要件」(24～26 頁)を参照して下さい。

##### C. 全身管理

入院患者に関して術前術後の全身管理と対応を行います。詳細については研修医マニュアルの「B. 全身管理」(17~18頁を参照して下さい)。

#### D. 処置

泌尿器科に特有な処置として以下のものを経験します。

##### 1) 膀胱タンポナーデ

- ・ 凝血塊除去術
- ・ 経尿道的膀胱凝固術

##### 2) 急性尿閉

- ・ 経皮的膀胱瘻造設術

##### 3) 急性腎不全

- ・ 急性血液浄化法
- ・ double-J カテーテル留置
- ・ 経皮的腎瘻造設術

#### (3) 年次毎の専門研修計画

専攻医の研修は毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。

##### ① 専門研修 1 年目 (基幹施設)

専門研修 1 年目では基本的診療能力および泌尿器科的基本的知識と技能の習得を目標とします。指導医は日々の臨床を通して専攻医の知識・技能の習得を指導します。

- 患者を全人的に理解し、患者・家族との良好な人間関係の構築を修得します。患者の訴えに常に耳を傾け、状態の変化に迅速に対応できるようにします。患者、家族の心理的、社会的状況に配慮し、適切な言葉遣いや行動ができます。患者、家族に対し守秘義務とプライバシーに配慮し、インフォームドコンセントの基本が理解できます。指導医と共に患者面接に立ち会います。
- チーム医療を理解し実践します。指導医に的確に報告、連絡、相談ができます。会議の時間、患者と約束した時間などが守れます。上級医、コメディカルと円滑なコミュニケーションを図り、チームの一員となれるように努めます。
- 診療記録を、的確な用語を使用して漏れなく記載できます。サマリー、手術記録、診断書など必要書類を遅れずに提出できます。
- 患者データの収集・解析時や学会発表時には個人情報の保護に努めます。
- 泌尿器科疾患の診断・鑑別ができ、各種症状・徴候から患者の状態に応じた診断・治療

計画をたてることができます。新入院患者、外来新患の現症から診断、治療の流れを学び指導医とディスカッションをします。上級医の外来診察に参加してその手法を学び取ります。外来患者の問診をとり、鑑別診断を自ら考察します。

- 症例ごとに適切な文献を検索し、情報を得ることができます。
- エコー、導尿、尿道カテーテル留置、尿道膀胱ファイバー、前立腺生検、尿路造影検査、体外衝撃波結石破碎術（ESWL）などの泌尿器科検査、処置、治療ができます。
- 内視鏡ならびに手術器具の特性を理解し、使用法が説明できます。泌尿器科手術における基本的な手技を学びます。手術の予復習を行います。
- 周術期患者の術前・術後管理、全身管理を学びます。
- 泌尿器科疾患の画像を理解することができます。担当患者の画像をチェックし、所見を説明することができます。放射線カンファレンスに参加し、画像診断を学びます。
- 医療を行う際の安全確認の考え方の理解と実施ができます。医療事故発生時に医療安全マニュアルに沿って行動できます。
- 院内感染対策を理解し実施できます。緩和ケアの基本を修得し、実践すると共に、これらに関する院内活動に参画します。

1 年次研修病院	専攻医の研修内容	執刀手術	
倉敷中央病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 泌尿器科専門知識として発生学、局所解剖、生殖生理、感染症、腎生理学、内分泌学を学ぶ。</li> <li>● 診察、外来および入院患者の病歴聴取から症状を把握し鑑別診断から診断に至るまでのプロセスを習得する（具体的な症状に関しては専攻医研修マニュアルの 16 ページを参照）。</li> <li>● 検査：腹部診察と超音波画像検査、検尿、前立腺、精巣の触診が自ら行うことができる。膀胱尿道鏡検査と尿管カテーテル法、ウロダイナミックス（尿流測定、膀胱内圧測定）、各種生検法（前立腺、膀胱、精巣）、X 線検査（KUB、DIP、膀胱造影、尿道造影）が自ら行うことができる。</li> <li>● 手術：疾患および各患者の医学的背景に応じて適切な手術方法を選択するこ</li> </ul>	術者として	
		前立腺生検	30
		腎・膀胱・前立腺エコー	30
		膀胱尿道ファイバー	30
		逆行性腎盂造影・尿管	10
		カテーテル留置	
		経尿道的膀胱腫瘍切除術	20
		陰嚢内手術（陰嚢水腫	5
		根治術、精巣固定術、去勢術）	
		ESWL	10
	助手として		
	開腹手術（腎・前立腺・膀胱など）	20	
	腹腔鏡手術	10	
	HoLEP	5	

	<p>とができる。診療科のカンファレンスでプレゼンテーションを行うことができる。患者および家族に手術に関する説明を行うことができる。施行された術式に関しては詳細な手術記録を記載し術後のカンファレンスでプレゼンテーションを行う。研修修了に必要な手術術式および件数に関しては専攻医研修マニュアルの24ページを参照する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的診療能力（コアコンピテンシー）：良好な医師患者関係を築くことができる。医療安全、医療倫理、感染対策に関する考え方を身につける。チーム医療の重要性を理解する。</li> <li>●学術活動：日本泌尿器科学会総会、地区総会、地方会へ積極的に参加する。学会主催の卒後教育プログラムを受講する。</li> </ul>	TUL	10
		PNL	2
		経皮的腎瘻造設術	5

② 専門研修2年目（基幹施設）

1年次に学習した泌尿器科専門知識・専門技能を確実に修得します。指導医は、専攻医が既に修得した知識・技能・態度の水準をさらに高められるように指導します。

2年次研修病院	専攻医の研修内容	執刀手術	
倉敷中央病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1年次に習得した泌尿器科専門知識をさらに発展させ、臨床応用ができる。</li> <li>●検査：以下の検査に関して指示、依頼を行い、または指導医のもとで実施し、自ら結果を判定または評価することができる。内分泌学的検査（下垂体、副腎、精巣、副甲状腺）、精液検査、ウロダイナミック（プレッシャーフロースタディー）、腎生検、腎盂尿管鏡検査、X線検査（逆行性腎盂造影、順行性腎盂造影、血管造影、CTなど）、核医学検査（PET、レノグラム、腎シンチ、骨シンチ、副腎シンチ、副甲状腺シンチ）、腎機能検査（クレアチニンクリアラン</li> </ul>	術者として	
		経尿道的膀胱腫瘍切除術	20
		TUL	10
		経皮的腎瘻造設術	3
		経皮的膀胱瘻造設術	2
		陰嚢内手術（陰嚢水腫根治術、精巣固定術、去勢術）	5
		PNL	2
		ESWL	10
		助手として	
		開腹手術（腎・前立腺・	10

	<p>ス、分腎機能検査など)、MRI 検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●手術：泌尿器科的処置として膀胱タンポナーデに対する凝血塊除去や経尿道的膀胱凝固術、急性尿閉に対する経皮的膀胱瘻造設術、急性腎不全に対する球性血液浄化法、double Jカテーテル留置、経皮的腎瘻造設術を行うことができる。基本的診療能力（コアコンピテンシー）：良好な医師患者関係を築くことができる。医療安全、医療倫理、感染対策に関する考え方を身につける。チーム医療の重要性を理解する。</li> <li>●基本的診察能力（コアコンピテンシー）：良好な医師患者関係を築くことができる。実際の診療およびチーム医療の一員として泌尿器科診療能力をさらに向上させる。同僚および後輩へ教育的配慮ができる。</li> <li>●学術活動：学会において症例報告を行う。臨床研究の重要性や手法について理解する。</li> </ul>	<p>膀胱など、部分的に執刀医として)</p> <p>腹腔鏡手術（スコピストおよび部分的に執刀医として)</p> <p>ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘(第1助手および部分的にコンソールサーजनとして)</p> <p>HoLEP (部分的に執刀医として)</p>	<p>10</p> <p>10</p> <p>5</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------

③ 専門研修 3～4 年目（連携施設 1～2 年間および基幹施設～1 年間）

既に修得した専門知識、技能、態度について、全ての項目が達成できていることを確認し、それらの水準をさらに高められるように指導します。連携施設での研修では、地域医療に貢献することを通じて、泌尿器科専門医の使命について自覚を持たせるよう指導します。

- 泌尿器科の一般的な検査・治療を自立して行えます。4 年目には、常勤のスタッフと同様の仕事内容がこなせるだけの、知識と技術を獲得します。
- 1 年次、2 年次、3 年次の専攻医を指導する機会を積極的に持たせて、指導を通じて自身の知識・技能・態度の向上にフィードバックさせるよう配慮します。
- 指導医の指導のもとに、手術の適応、術式の選択、手術計画を立て、手術の執刀、周術期管理を、医療チームの中心として遂行できる能力を習得します。
- ハイリスク症例や敗血症などの重症例に関しても、積極的にチームの一員として対応できます。
- サブスペシャリティ領域の専門医を取得する希望があれば、その領域に関連する疾患や技能をより多く経験できるように調整します。



- 専門医取得後の、腹腔鏡手術、ロボット支援手術の執刀を目標として、腹腔手術、ロボット支援手術に積極的に参加させるようにします。

3～4 年次研修 病院	専攻医の研修内容	執刀手術（年間例数）	
連携施設もしくは倉敷中央病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2 年次に習得した泌尿器科専門知識をさらに発展させ、臨床応用ができる。</li> <li>●泌尿器科の一般的な検査・治療を自立して行える。4 年目には常勤のスタッフと同様の仕事内容がこなせるだけの、知識と技術を獲得する。</li> <li>●指導医のもとに、手術の適応、樹脂期の選択、手術計画を立て、手術の執刀、周術期管理を、医療チームの中心として遂行できる能力を習得する。</li> <li>●ハイリスク症例や敗血症などの重症例に関しても、積極的にチームの一員として対応できる。</li> <li>●1 年次、2 年次の専攻医を指導する機会を積極的に持ち、指導を通じて自身の知識・技能・態度の向上にフィードバックする。</li> <li>●より専門的な泌尿器科疾患の診断・治療に取り組み、さらにサブスペシャリティーに取り組むための素養を高める。</li> <li>●学術活動：臨床研究を行い自ら学会発表、論文発表を行う。</li> </ul>	術者として 経尿道的膀胱腫瘍切除術 TUL 経皮的腎瘻造設術 経皮的膀胱瘻造設術 陰嚢手術（陰嚢水腫根治術、精巣固定術、去勢術） PNL ESWL 開腹手術（腎・前立腺・膀胱など） 腹腔鏡下副腎摘除術 腹腔鏡下腎・尿管悪性腫瘍手術 ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘（コンソールサーजनとして） HoLEP	20 10 3 2 5 2 10 5 2 5 5 5

#### (4) 臨床現場での学習

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムでは bed-side や実際の手術での実地修練 (on-the-job training) に加えて、広く臨床現場での学習を重視します。具体的には以下のような項目を実施します。基幹施設での 1 週間の具体的なスケジュールを以下に示します。

月曜日

8:00～8:45 症例カンファランス

9:00～	外来 病棟業務または手術
火曜日	
7:45～8:45	症例カンファレンス
9:00～	外来、病棟業務または手術
水曜日	
7:30～8:45	翌週手術症例カンファランス
9:00～	外来、病棟業務または手術
木曜日	
8:00～8:20	症例カンファランス
8:20～8:45	病理カンファランス
9:00～	外来、病棟業務または手術
金曜日	
7:45～8:45	症例カンファレンスおよび抄読会
9:00～	外来、病棟業務または手術

- 毎朝、症例カンファレンスを行っています。電子カルテを開いて主治医が前日の緊急入院症例を提示します。また、問題症例（入院・外来を問わず）の治療方針を検討したり、死亡症例の振り返りも行います。水曜日には翌々週の手術予定症例を提示し、診断・治療について検討します。
- 木曜日の朝に病理診断がついたプレパラートを顕微鏡で提示して、今後の治療方針を検討します。
- 金曜日の朝に抄読会を行います。シニアスタッフが英文誌の中から興味ある論文を1篇指定しますので、内容を分かり易くプレゼンテーションして下さい。
- Hands-on-training として積極的に手術の助手を経験します。その際に術前のイメージトレーニングと術後の詳細な手術記録を実行して下さい。また、内視鏡手術・腹腔鏡手術のビデオをライブラリーとして保管していますので参照することが可能です。手術前のイメージトレーニング、術後の反省に役立ててください。
- 日常診療において、なにかトラブルが発生した時には、すぐに指導医あるいは近くの上級医に報告をして指示を仰いでください。翌日の朝までには部長ならびに全員に報告をするのも忘れないでください。

#### (5) 臨床現場を離れた学習

本研修プログラムの目的である、医の倫理に基づいた医療の実践を体得し、高度の泌尿器科専門知識と技能とともに地域医療にも対応できる総合的診療に必要な基本的臨床能力を修得し、国民の健康増進、医療の向上に貢献できる泌尿器科専門医を育成するためには、臨床現場において泌尿器科専門知識・技能を獲得するだけでなく、臨床現場とは別の機会において、幅広い知識や情報を得ることが必要です。このことから、臨床現場とは別の機会において下記の事項を学習するように努めます。

- 国内外の標準的治療および先進的・研究的治療を学習する機会
- 泌尿器科学会において医療倫理、医療安全等を学ぶ機会
- 指導・教育法、評価法などを学ぶ機会
- 基幹施設・連携施設における各種研修セミナー：医療安全、医療倫理、感染制御を学ぶ機会
- 基幹施設・連携施設において実施した内視鏡・腹腔鏡手術の手術ビデオのライブラリーを利用して手術手技の学習を行う。

泌尿器科学に関する学習に関しては、年1回の日本泌尿器科学会総会、西日本泌尿器科学会総会に参加して、積極的に卒後教育プログラムを受講してください。また、年4回の日本泌尿器科学会岡山地方会にも積極的に参加してください。さらにサブスペシャリティーの学会（日本泌尿器内視鏡学会、日本泌尿器腫瘍学会、日本がん治療学会、日本内視鏡外科学会、日本内分泌外科学会など）にもできるだけ参加して下さい。これらの学会で年1～2回の発表を行うようにしてください。

日本泌尿器科学会ホームページ上のe-ラーニングも内容が充実してきていますので、積極的に視聴するよう心がけてください。

#### (6) 自己学習

研修する施設の規模や疾患の希少性により専門研修期間内に研修カリキュラムに記載されている疾患、病態を全て経験することを出来ない可能性があります。このような場合は以下のような機会を利用して理解を深め該当疾患に関するレポートを作成し指導医の検閲を受けるようにして下さい。

- 日本泌尿器科学会および支部総会での卒後教育プログラムへの参加
- 日本泌尿器科学会ならびに関連学会で作成している各種診療ガイドライン
- インターネットを通じての文献検索（医学中央雑誌やPub MedあるいはUpToDateのよう

な 電子媒体)

- また専門医試験を視野に入れた自己学習（日本泌尿器科学会からは専門医試験に向けたセルフアセスメント用の問題集が発売されています）

## 6. プログラム全体と各施設によるカンファレンス

### (1) 基幹施設でのカンファレンス

基幹施設においては毎朝カンファレンスと週1回の抄読会を定期的で開催しています。連携施設でのカンファレンスに関してはそれぞれの施設により開催形態は異なります。以下に基幹施設におけるカンファレンスの内容を示します。

- 症例検討会（月曜日8:00～8:45、火曜日7:45～8:45、水曜日7:30～8:45、木曜日8:00～8:20、金曜日7:45～8:45）：前日の緊急入院症例の提示を行います。水曜日に翌々週の手術予定患者の治療方針に関して担当医が症例提示し、全員で診断・治療方針に関して検討します。問題症例の検討、死亡症例の振り返りは随時行っています。
- 抄読会（金曜日8:00～8:15）：当該領域のトップジャーナル（The Journal of Urology、European Urologyなど）から興味のある原著論文や総説を選択し、参加者全員にわかりやすいようにプレゼンテーションを行います。

### (2) プログラム全体でのカンファレンス

専門研修プログラム管理委員会が年1回開催されますのでそれに引き続いた全体でのカンファレンスを開催します。全体でのカンファレンスでは問題症例の提示や各施設において積極的に取り組んでいる治療の紹介、学会や文献検索で得られた最新の知識のレビュー等を発表してもらいます。

## 7. 学問的姿勢について

優れた泌尿器科専門医になるために、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。日常的診療から浮かび上がる問題については、診断・治療 コンセンサス、診療ガイドラインや文献検索（医学中央雑誌、PubMed など）を通じて問題 解決型の思考を身につけ、EBM を実践することを学んで下さい。個々の症例に対して、カンファレンスだけではなく多くの同僚あるいは他科の医師や院外 の識者と議論

することが重要です。今日のエビデンス・経験では解決し得ない問題については、臨床研究に自ら参加、もしくは企画することで解決しようとする姿勢を身につけるようにしてください。学会に積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表してください。得られた成果は論文として発表して、公に広めると共に批評を受ける姿勢を身につけてください。本専門研修プログラムでは、医学や医療の進歩のためには基礎的・臨床的研究が重要かつ必須であると考えて、専門研修中に指導医の下で積極的に研究に参加して研究成果を学会などで発表することを必要としています。本プログラムにおいては、以下のような事項を目標として、下記3つの目標のうち2つ以上を満たすことを専門研修の修了要件に含みます。

- 学会での発表：日本泌尿器科学会および関連学会における演題発表を筆頭演者で4回以上
- 論文発表：査読制を敷いている医学雑誌への投稿、筆頭著者1編以上
- 研究参画：基幹施設もしくは関連施設における臨床研究（治験を含む）への参画1件以上

## 8. コアコンピテンシーの研修計画

医師として求められる基本的診療能力（コアコンピテンシー）には患者-医師関係、医療安全、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

### ① 患者-医師関係

医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。医師、患者、家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームドコンセントを実施します。守秘義務を果たしプライバシーへの配慮をします。

### ② 安全管理（リスクマネジメント）

医療安全、院内感染対策、個人情報保護についての考え方を理解し、事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。院内感染対策を理解し、実施します。個人情報保護についての考え方を理解し実施します。

### ③ チーム医療

チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができます。他のメディカルスタッフと協調して

診療にあたります。後輩医師に教育的配慮をします。

#### ④ 社会性

保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守します。健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践します。医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。診断書、証明書を記載します。

コアコンピテンシー（医療安全、医療倫理、感染対策）に関しては日本泌尿器科学会総会、各地方総会で卒後教育プログラムとして開催されますので積極的にこれらのプログラムを受講するようにして下さい。また基幹施設では医療安全管理・感染対策・医療倫理に関する講習会が定期的に行われていますのでこれらにも積極的に参加するよう心がけて下さい。

## 9. 地域医療における施設群の役割・地域医療に関する研修計画

### (1) 地域医療の経験と地域医療・地域連携への対応

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムでは、主に岡山県南西部の2次診療圏に含まれる専門研修施設で研修します。岡山県南西部には医療過疎の地区も含まれており、泌尿器科専門医の数も決して多くはありません。研修基幹施設である倉敷中央病院は倉敷市に位置し、救命救急センターを持ち、救急患者数6万人/年、救急車1万台/年と症例数も多いため、外傷、尿路性器感染症、尿路性器出血、急性陰嚢症など多彩な泌尿器救急疾患が経験できます。日本泌尿器科学会の認定する拠点教育施設である連携研修施設は3つ（倉敷成人病センター、水島協同病院、高松病院）あります。倉敷成人病センターでは、腹腔鏡手術、ロボット手術を中心とした専門研修が受けられます。水島協同病院では、特に排尿障害の診療を専門分野としています。高松病院は香川県高松市に位置しており、岡山県南西部医療圏には含まれていませんが、サブスペシャリティである女性泌尿器科の手術症例を数多く経験することができます。上記の4施設では主に専門的知識、技能を向上させるための研修が主体となります。

いっぽう、他の連携施設（水島中央病院、金光病院、倉敷市立市民病院）は本医療圏で地域医療を担っている重要な病院ですが、泌尿器科専門医は1～2名と少ない施設です。2年間の基幹施設での研修が終わった時点では、これらの連携施設（あるいは協力施設）へ移動して、時にひとりで判断せねばならない事態に遭遇しても適切に対処できるだけの事例を経験できている筈です。これらの連携施設（あるいは協力施設）では、指導医とマ

ン・ツー・マン体制で指導が受けられ、基幹施設に比べると症例数がさほど多くない代わりに1例1例濃厚な経験をする機会が増えます。地域の医療機関と連携して泌尿器科の研修をすることで、地域医療における病診・病々連携の重要性を理解し、実際を経験して実践することによって社会に対する責務を果たし、地域医療にも配慮した国民の健康・福祉の増進に貢献できます。

## (2) 地域における指導の質保証

研修基幹施設と研修連携施設における指導の共有化をめざすために以下のような企画を実施します。

- 研修プログラムで研修する専攻医、指導する指導医を集めての研修会・講演会などを行い教育内容の共通化を図ります。
- 専門研修指導医の訪問による専攻医指導の機会を設けます。

## 10. 専攻医研修ローテーション

### (1) 基本的な研修ローテーションに関して

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムでは、4年間の研修期間のうち2ないし3年間で研修基幹施設である倉敷中央病院で研修します。残りの1ないし2年間に関しては、原則、研修連携施設および研修協力施設での研修となりますが、本人の希望や研修の進み具合に応じて、研修基幹施設での研修を最大3年間までは許容します。2年目以降の研修先に関しては専門研修プログラム管理委員会で決定することとします。同一施設での研修は、最短3ヶ月、最長連続2年とし、通算で3年までとします。

### (2) 研修連携施設について

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムに属する研修連携施設は6施設あり、うち4施設（倉敷中央病院、倉敷成人病センター、水島協同病院、高松病院）は日本泌尿器科学会の認定する拠点教育施設、2施設（水島中央病院、倉敷市立市民病院）は関連教育施設です。また、金光病院は日本泌尿器科学会の認定した関連教育施設ではありませんが、十分な経験を有する泌尿器科専門医が在職し、泌尿器科専門研修に必要な特徴・診療内容を有するため、研修連携施設④として専攻医の研修に協力してくれます。

専門医研修の期間中は臨床経験を豊富にこなす必要がある観点から基本的には上記の拠

点教育施設を満たす研修施設（4施設）での研修を基本としますが、同時に3つの研修連携施設へも出向し、地域医療の現状について理解する事も重要です。周辺の医療施設との病診・病病連携の実際を経験して実践することによって社会に対する責務を果たし、地域医療にも配慮した国民の健康・福祉の増進に貢献することの重要性を理解し修得する事となります。

	基幹・連携	日本泌尿器科学会教育施設	泌尿器科一般手術数	泌尿器科専門手術数*	腹腔鏡手術	ロボット手術	ESWL	Ho:YAGレーザー	透析施設	その他の特徴
倉敷中央病院	基幹	拠点	554	253	○	○	○	○	○	生殖医療
倉敷成人病センター	連携①	拠点	360	383	○	○	○	○	○	女性泌尿器科
水島協同病院	連携②	関連	39	29	○		○	○	○	
KKR高松病院	連携①	拠点	91	114	○		○	○		女性泌尿器科
水島中央病院	連携②	関連	82	30			○			
倉敷市立市民病院	連携②	関連	64	65	○		○	○		
金光病院	連携④		64	36			○	○	○	

手術数は2020～2022年の3年間の平均

\*（）内は腹腔鏡、ロボット手術数で、一般手術数と重複する

《研修プログラム整備基準》

- ・ 連携施設①：日本泌尿器科学会拠点教育施設
- ・ 連携施設②：日本泌尿器科学会関連教育施設
- ・ 連携施設③：専門的な領域における症例数や診療実績で基幹施設を補完する症例数、診療実績を満たす施設
- ・ 連携施設④：地域連携を経験するために必要な施設





● 基幹施設      ● 研修連携施設

## 11. 専攻医の評価時期と方法

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。評価は形成的評価（専攻医に対してフィードバックを行い、自己の成長や達成度を把握できるように指導を行う）と総括的評価（専門研修期間全体を総括しての評価）からなります。

### (1) 形成的評価

指導医は年 1 回（3 月）、専攻医のコアコンピテンシー項目と泌尿器科専門知識および技能修得状況に関して形成的評価を行います。すなわち、項目毎に専攻医に対してフィードバックし、自己の成長や達成度を把握できるように指導を行います。

専攻医は指導医・指導責任者のチェックを受けた研修目標達成度評価報告用紙（シート 1-1 ～1-4）と経験症例数報告用紙（シート 2-1、2-2、2-3-1～2-3-3）を専門研修プログ

ラム管理 委員会に提出します。書類提出時期は形成的評価を受けた翌月とします。

専攻医の研修実績および評価の記録は専門研修プログラム管理委員会で保存します。また 専門研修プログラム管理委員会は年次報告の内容を精査し、次年度の研修指導に反映させることとします。

## (2) 総括的評価

専門研修期間全体を総括しての評価はプログラム統括責任者が行います。最終研修年度（専門研修4年目）の研修を終えた4月に研修期間中の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を総合的に評価し、専門的知識、専門的技能、医師として備えるべき態度を習得 したかどうかを判定します。また、ローテーション終了時や年次終了時等の区切りで行う形成的評価も参考にして総括的評価を行います。

研修基幹施設の専門研修プログラム管理委員会において、知識、技能、態度それぞれについて評価を行い、総合的に修了判定を可とすべきか否かを判定します。知識、技能、態度の中に不可の項目がある場合には修了とみなされません。

総括的評価のプロセスは、自己申告ならびに上級医・専門医・指導医・多職種の評価を参考にして作成された、研修目標達成度評価報告用紙、経験症例数報告用紙について、連携施設指導者の評価を参考に専門研修プログラム管理委員会で評価し、プログラム統括責任者が 決定することとなります。医師以外の医療従事者からの評価も参考にします。医師としての倫理性、社会性に係る以下の事項について評価を受けることとなります。評価の方法としては、看護師、薬剤師、MSW、（患者）などから評価してもらいます。

特に、「コアコンピテンシー 4. 倫理観と医療のプロフェッショナリズム」における、それぞれのコンピテンシーは看護師、薬剤師、クラーク等の医療スタッフによる評価を参考にしてプログラム統括責任者が行います。これは研修記録簿シート 1-4 に示してあります。

## 12. 専門研修施設群の概要

### (1) 専門研修基幹施設の認定基準

泌尿器科専門研修プログラム整備基準では専門研修基幹施設の認定基準を以下のように定めています。

- 専門研修プログラムを管理し、当該プログラムに参加する専攻医および専門研修連携施

設を統括する。

- 初期臨床研修の基幹型臨床研修病院の指定基準（十分な指導医数、図書館設置、GPC などの定期開催など）を満たす教育病院としての水準が保証されている。
- 日本泌尿器科学会拠点教育施設である。
- 全身麻酔・硬膜外麻酔・腰椎麻酔で行う泌尿器科手術が年間100件以上である。
- 泌尿器科指導医が1名以上常勤医師として在籍している。
- 認定は日本泌尿器科学会の専門研修委員会が定める専門研修基幹施設の認定基準に従い、日本泌尿器科学会の専門研修委員会が行う。
- 研修内容に関する監査・調査に対応出来る体制を備えていること。
- 施設実地調査(サイトビジット)による評価に対応できる。

本プログラムの研修基幹施設である倉敷中央病院は以上の要件を全て満たしています。実際の診療実績に関しては別添資料を参照して下さい。

## (2) 専門研修連携施設の認定基準

泌尿器科専門研修プログラム整備基準では専門研修連携施設の認定基準を以下のように定めています。

- 専門性および地域性から当該専門研修プログラムで必要とされる施設であること。
- 研修連携施設は専門研修基幹施設が定めた専門研修プログラムに協力して専攻医に専門研修を提供する。
- 日本泌尿器科学会拠点教育施設あるいは関連教育施設である。
- 認定は日本泌尿器科学会の専門研修委員会が定める専門研修連携施設の認定基準に従い、日本泌尿器科学会の専門研修委員会が行う。

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムに属する専門研修連施設は6つあり、これらの病院群はすべて上記の認定基準をみたしています。この中で日本泌尿器科学会の認定した3つの拠点教育施設（倉敷中央病院、倉敷成人病センター、KKR高松病院）と、関連教育施設として位置づけられる3つの病院（水島協同病院、水島中央病院、倉敷市立市民病院）に分けられます。

金光病院は日本泌尿器科学会の認定した関連教育施設ではありませんが、十分な経験と教育能力を有する泌尿器科専門医が在職し、泌尿器科手術や体外衝撃波結石破碎術も実施しており、地域医療を経験するために必要な施設であるため、下記の連携施設④として登録しました。

### 《研修プログラム整備基準》

- ・ 連携施設①：日本泌尿器科学会拠点教育施設
- ・ 連携施設②：日本泌尿器科学会関連教育施設
- ・ 連携施設③：専門的な領域における症例数や診療実績で基幹施設を補完する症例数、診療実績を満たす施設
- ・ 連携施設④：地域連携を経験するために必要な施設

専門研修の期間中は臨床経験を豊富にこなす必要がある観点から、基本的には上記の3つの基幹教育施設である専門研修病院で、常勤医としての泌尿器科専門研修を行います。各施設の指導医数、特色、診療実績等を別添資料5に示していますので参照して下さい。

### (3) 専門研修指導医の基準

泌尿器科専門研修プログラム整備基準では専門研修指導医の基準を以下のように定めています。

- 専門研修指導医とは、専門医の資格を持ち、十分な診療経験を有しかつ教育指導能力を有する医師である。
- 専攻医研修施設において常勤泌尿器科医師として5年以上泌尿器科の診療に従事していること（合計5年以上であれば転勤による施設移動があっても基準を満たすこととする）。
- 泌尿器科に関する論文業績等が基準を満たしていること。基準とは、泌尿器科に関する学術論文、学術著書等または泌尿器科学会を含む関連学術集会での発表が5件以上あり、そのうち1件は筆頭著書あるいは筆頭演者としての発表であること。
- 日本泌尿器科学会が認める指導医講習会を5年間に1回以上受講していること。
- 日本泌尿器科学会が認定する指導医はこれらの基準を満たしているので、本研修プログラムの指導医の基準も満たすものとします。

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムに属する6つの専門研修施設においては日本泌尿器科学会が認定する泌尿器科指導医が常勤しているので、上記の認定基準をみたしています。

1つの施設（金光病院）でも学会認定指導医と同等レベルの十分な診療経験を有しかつ教育指導能力を有する専門医が常勤しています。

### (4) 専門研修施設群の構成要件

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムは、専攻医と各施設の情報を定期的に共有するために本プログラムの専門研修プログラム管理委員会を毎年1回開催します。基幹施設、連携施設ともに、毎年3月30日までに前年度の診療実績および病院の状況に関して本プログラムの専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います。

- 病院の概況：病院全体での病床数、特色、施設状況（日本泌尿器科学会での施設区分、症例検討会や合同カンファレンスの有無、図書館や文献検索システムの有無、医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会の有無）
- 診療実績：泌尿器科指導医数、専攻医の指導実績、次年度の専攻医受け入れ可能人数、代表的な泌尿器科疾患数、泌尿器科検査・手技の数、泌尿器科手術数（一般的な手術と専門的な手術）
- 学術活動：今年度の学会発表と論文発表
- Subspecialty領域の専門医数

#### (5) 専門研修施設群の地理的範囲

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムに属する専門研修施設は7つありますが、倉敷市を中心とした地方都市型の2次診療圏（岡山県南西部医療圏）、高松市を中心とした地方都市型の2次診療圏（香川県高松医療圏）から構成されています。専門研修基幹施設から岡山県南西部医療圏の5つの研修連携施設までは半径20km以内にあり、車を利用して1時間以内で移動可能です。なお「10. 専門医研修ローテーション（2）研修連携施設について」のところに地図が掲載されていますので、参照して下さい。

#### (6) 専攻医受け入れ数についての基準

泌尿器科専門研修プログラム整備基準では研修指導医1名につき最大2名までの専攻医の研修を認めています。本施設群での研修指導医は15名（按分後は5.75名）で、全体で約11名までの受け入れが可能ですが、手術数や経験できる疾患数を考慮すると全体で4名（1年あたりの受け入れ数にすると1名）を本研修プログラムの上限に設定します。

#### (7) 地域医療・地域連携への対応

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムは地域の泌尿器科医療を強く念頭においたプログラムであり、7つの専門研修施設のうち6つは岡山県南西部医療圏に位置しています。普段からこの地域において地域医療を担っている病院群であるため、周辺の医療施設との病

診・病々連携の重要性を理解し、実際を経験して実践することによって社会に対する責務を果たし、地域医療にも配慮した国民の健康・福祉の増進に貢献できます。高松病院は医療圏としては異なるものの、サブスペシャリティである女性泌尿器科の手術症例を数多く経験できるため、最終的には本プログラムにおける地域医療に貢献できる人材の育成に繋がると考えられます。

詳細については「9. 地域医療における施設群の役割・地域医療に関する研修計画」の項を参照して下さい。

### 13. 専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修基幹施設である倉敷中央病院には、本専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する泌尿器科専門研修プログラム管理委員会ならびに統括責任者（委員長）を置きます。専門研修関連施設においても原則として常設の委員会を設置して、特に委員会を組織している連携施設では、その代表者が専門研修プログラム管理委員会に出席します。研修基幹施設および研修連携施設は、それぞれの指導医および施設責任者の協力により泌尿器科領域専門研修プログラム管理委員会を組織して、専攻医の指導・評価を行います。専門研修プログラムの管理には専攻医による指導医・指導体制等に対する評価も含めることとし、双方向の評価システムにより互いのフィードバックから研修プログラムの改善を行います。

#### (1) 研修プログラム統括責任者に関して

研修プログラム統括責任者は専攻医の研修内容と修得状況を評価し、その資質を証明する書面を発行します。研修プログラム統括責任者の基準は下記の通りとします。

- 専門医の資格を持ち、専攻医研修施設において常勤泌尿器科医師として10年以上診療経験を有する専門研修指導医である（合計10年以上であれば転勤による施設移動があっても基準を満たすこととする）。
- 教育指導の能力を証明する学習歴として泌尿器科領域の学位を取得していること。
- 診療領域に関する一定の研究業績として査読を有する泌尿器科領域の学術論文を筆頭著者あるいは責任著者として5件以上発表していること。
- プログラム統括責任者は泌尿器科指導医であることが望ましい。

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムの統括責任者は以上の条件を満たしています。

## (2) 研修基幹施設の役割

研修基幹施設は専門研修プログラムを管理し、当該プログラムに参加する専攻医および専門研修連携施設を統括します。研修基幹施設は各専門研修施設が研修のどの領域を担当するかをプログラムに明示するとともに研修環境を整備する責任を負います。

## (3) 専門研修プログラム管理委員会の役割

- プログラムの作成
- 専攻医の学習機会の確保
- 専攻医及び指導医から提出される評価報告書にもとづき専攻医および指導医に対して必要な助言を行う。またプログラム自身に改善の余地がある場合はこれを検討します。
- 継続的、定期的に専攻医の研修状況を把握するシステムの構築
- 適切な評価の保証
- プログラム統括責任者は専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて修了の判定を行います。

## 14. 専門研修指導医の研修計画

指導医はよりよい専門医研修プログラムの作成のために指導医講習会などの機会を利用してフィードバック法を学習する必要があります。具体的には以下の事項を遵守して下さい。

- 指導医は日本泌尿器科学会で実施する指導医講習会に少なくとも5年間に1回は参加します。
- 指導医は総会や地方総会で実施されている教育 skill や評価法などに関する講習会を1年に1回受講します（E-ラーニングが整備された場合、これによる受講も可能とします）。
- また日本泌尿器科学会として「指導者マニュアル」を作成したのでこれを適宜参照して下さい。
- 研修基幹施設などで設けられているFDIに関する講習会に機会を見て参加します。

## 15. 専攻医の就業環境について

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムでは労働環境、労働安全、勤務条件に関して以下のように定めます。

- 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に務めることとします。
- 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮すること。
- 勤務時間は週に40時間を基本とし、時間外勤務は月に80時間を超えないものとします。
- 勉学のために自発的に時間外勤務を行うことは考えられることではあるが心身の健康に支障をきたさないように配慮することが必要です。
- 当直業務と夜間診療業務は区別しなければならず、それぞれに対応した適切な対価が支給されます。
- 当直あるいは夜間診療業務に対して適切なバックアップ体制を整えます。
- 過重な勤務とならないように適切な休日の保証について明示します。
- 施設の給与体系を明示します。

## 16. 泌尿器科研修の中止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

専門研修中の特別な事情への対処に関しては日本泌尿器科学会の専門研修委員会で示される以下の対処に準じます。

- 専門研修プログラム期間のうち、出産に伴う6ヶ月以内の休暇は研修期間にカウントできます。分割しての取得も認めます。
- 疾病での休暇は6ヶ月まで研修期間にカウントできます。
- 他科（麻酔科、救急科など）での研修は6年間のうち6ヶ月まで認めます。
- 疾病の場合は診断書を、出産の場合は出産を証明するものの添付が必要です。
- フルタイムではないが、勤務時間は週20時間以上の形態での研修は4年間のうち6ヶ月まで認めます。
- 上記項目に該当する者は、その期間を除いた常勤での専攻医研修期間が通算3年半以上必要です。
- 留学、病院勤務のない大学院の期間は研修期間にカウントできません。
- 専門研修プログラムの移動には、日本泌尿器科学会の専門研修委員会へ申請し承認を得る必要があります。したがって、移動前・後の両プログラム統括責任者の話し合いだけでは行えないことを基本とします。



## 17. 専門研修プログラムの改善方法

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムにおいては、各指導医からの助言とともに専攻医からの双方向的なフィードバックによりプログラム自体を継続的に改善していくことを必須とします。またサイトビジット等を通じて外部評価を定期的に受け内容を反映していくことも重要です。最後に専攻医の安全を確保するため、研修施設において重大な問題が生じた場合は研修プログラム総括責任者に直接連絡を取り、場合により臨時の専門研修プログラム管理委員会にて対策を講じる機会を設けることとします。

### (1) 研修プログラムの改善に関して

年に1回開催される専門研修プログラム管理委員会においては各指導医からの報告、助言とともに専攻医から提出された2つの評価用紙「研修プログラム評価用紙」（シート4）と「指導医評価報告用紙」（シート5）をもとに研修施設、指導医、プログラム全体に対する双方向的なフィードバックを行い継続的に研修プログラムの改善を行います。

### (2) サイトビジットに関して

専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の資質の保証に対しては、われわれ医師自身が、プロフェッショナルとしての誇りと責任を基盤として自律的に行わなければなりません。研修プログラムに対する外部からの監査・調査に対して研修基幹施設責任者および研修連携施設責任者は真摯に対応する必要があります。サイトビジットは同僚評価であり、制度全体の質保証にとって重要な役割を持っています。サイトビジットで指摘された点に関しては専門研修プログラム管理委員会で真摯に検討し改善に努めるものとします。

### (3) 研修医の安全に関して

研修施設において研修医の安全を脅かすような重大な問題が生じた場合は、専攻医は研修プログラム総括責任者に直接連絡を取ることができます。この事態を受けて研修プログラム総括責任者は臨時の専門研修プログラム管理委員会を開催するか否かを決定します。臨時の専門研修プログラム管理委員会では事実関係を把握した上で今後の対処法について討議を行います。

## 18. 専門研修に関するマニュアルおよび研修記録簿について

研修実績および評価の記録研修記録簿（研修目標達成度評価報告用紙および経験症例数報告用紙）に記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。

専門研修プログラム管理委員会にて、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修 PG に対する評価も保管します。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

### ① 専攻医研修マニュアル

別紙「専攻医研修マニュアル」参照。

### ② 指導者マニュアル

別紙「指導医マニュアル」参照。

### ③ 研修記録簿フォーマット

研修記録簿に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録してください。少なくとも半年に1回は形成的評価を行って下さい。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われます。

### ④ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価を行い、指導医も形成的評価を行って記録します。

## 19. 専攻医の募集および採用方法

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラム管理委員会は、専門医研修プログラムを日本専門医機構および日本泌尿器科学会のウェブサイトにも公表し、泌尿器科専攻医を募集します。プログラムへの応募は複数回行う予定ですが、詳細については日本専門医機構からの案内に従ってください。書類選考および面接・試問を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については3月の倉敷地区泌尿器科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに以下の専攻医氏名報告書を、倉敷地区泌尿器科専門研修プログラム管理委員会および、日本泌尿器科学会の専門研修委員会に

提出します。

- 専攻医の氏名と医籍登録番号、日本泌尿器科学会会員番号、専攻医の卒業年度、専攻医の研修開始年度
- 専攻医の履歴書
- 専攻医の初期研修修了証

## 20. 専攻医の修了要件

倉敷地区泌尿器科専門研修プログラムでは以下の全てを満たすことが修了要件です。

(1) 4つのコアコンピテンシー全てにおいて以下の条件を満たすこと

1. 泌尿器科専門知識：全ての項目で指導医の評価が a または b
  2. 泌尿器科専門技能：診察・検査・診断・処置・手術：全ての項目で指導医の評価が a または b
  3. 継続的な科学的探求心の涵養：全ての項目で指導医の評価が a または b
  4. 倫理観と医療のプロフェッショナリズム：全ての項目で指導医の評価が a または b
- 一般的な手術：術者として50例以上
  - 専門的な手術：術者あるいは助手として1領域10例以上を最低2領域かつ合計30例以上
  - 経験目標：頻度の高い全ての疾患で経験症例数が各2症例以上
  - 経験目標：経験すべき診察・検査等についてその経験数が各2回以上

(3) 講習などの受講や論文・学会発表：40単位（更新基準と合わせる）

- 専門医共通講習（最小3単位、最大10単位、ただし必修3項目をそれぞれ1単位以上含むこと）
  - 医療安全講習会：4年間に1単位以上
  - 感染対策講習会：4年間に1単位以上
  - 医療倫理講習会：4年間に1単位以上
  - 保険医療（医療経済）講習会、臨床研究/臨床試験研究会、医療法制講習会、など
- 泌尿器科領域講習（最小15単位、最大37単位）
  - 日本泌尿器科学会総会での指定セッション受講：1時間1単位

- 日本泌尿器科学会地区総会での指定セッション受講：1時間1単位
- その他 日本泌尿器科学会が指定する講習受講：1時間1単位
- 学術行政・診療以外の活動実績（最大15単位）
  - 日本泌尿器科学会総会の出席証明：3単位
  - 日本泌尿器科学会地区総会の出席証明：3単位
  - 日本泌尿器科学会が定める泌尿器科学会関連学会の出席証明：2単位
  - 日本泌尿器科学会が定める研究会等の出席証明：1単位
- 論文著者は 2単位、学会発表本人は 1単位。

## 別添資料一覧

（泌尿器科領域共通）

1. 専攻医研修マニュアル
2. 専攻医研修記録簿
3. 専門研修指導マニュアル